

フライブルク国立音楽大学教授・パリ地方音楽院教授を務めるルサージュ教授は、今回5月9日（横浜みなとみらい大ホール）5月14日（王子ホール）等の、来日ピアノコンサートツアーの合間をぬって洗足音大へ来てくれました。

海外教員招聘制度が始まってから3回目の来校、ひた向きに音楽に取り組む学生のためにぜひ役に立ちたいというのが彼の願いです。そしてこの素晴らしい環境で学べる学生たちを毎回羨ましがっています。

午前10時から3時間のレッスン開始。

「オーケストラとのピアノコンチェルト」ソリスト選出オーディションに近いこともあり、3年生と2年生の2人がラフマニノフピアノ協奏曲第2番 ハ短調 作品18、1年生がプーランク：ナポリよりイタリア奇想曲を受講しました。

ラフマニノフ協奏曲第1楽章の左手をいかにハーモニックに歌わせるかを細かく指導。第2楽章では途中オーケストラと合いにくい箇所を自分で拍子を数えながら演奏するといったような、具体的な練習方法を含むとても役に立つレッスンでした。学生もそれに応え見事に改善された演奏になりました。

プーランクは、全曲CDも出しているルサージュ教授お得意の作曲家です。先生自身がピアノを演奏し、エスプリの聴いた素晴らしい手本を示し、我々はそれを聞いて楽譜に書かれた強弱記号やスタッカート等の表現を思いきり変化をつけて弾くことを学びました。

朝早いにもかかわらず、沢山の学生たちが聴講してくれ、ピアノの近くで楽譜を広げながら熱心に聴いていたことが印象的でした。（末高明美）



洗足音大正面玄関前にて
ルサージュ教授



レッスン風景：受講生 末高先生（通訳） ルサージュ教授